

令和 6 年度第 2 回 渋川市総合教育会議 議事録

I 開催日時

令和 7 年 2 月 5 日（水）午前 1 0 時 5 分開会 午後 0 時 1 0 分閉会

II 開催場所

渋川市役所本庁舎大会議室

III 出席者

1 構成員

高木市長、下境教育長、岩崎教育長職務代理者、都橋教育委員、
原澤教育委員、須田教育委員

2 市長部局

伊勢副市長、鴻田総合戦略部長、小野政策戦略課長、
坂本政策戦略課統括主幹、後藤政策戦略課主査

3 教育委員会部局

斉藤教育部長、西島教育総務課長、飯塚学校教育課長、
中澤渋川市立図書館長、中山渋川市美術館長、
山賀教育総務課課長補佐

4 傍聴者

1 0 名

IV 会議の概要

1 開会

政策戦略 課長	皆さんおはようございます。本日はお忙しいところご出席 いただきまして、誠にありがとうございます。 ただいまから、令和 6 年度第 2 回 渋川市総合教育会議を開 会いたします。会議の進行を務めさせていただきます、政策 戦略課の小野です。よろしくお願いいたします。
------------	---

2 市長あいさつ

政策戦略 課長	それでは、開会に当たりまして高木市長からごあいさつを 申し上げます。
高木市長	皆さんおはようございます。「令和 6 年度第 2 回 渋川市総合

	教育会議」を開催するに当たり一言ごあいさつを申し上げます。 教育委員の皆さんにおかれましては、お忙しい中ご出席を賜り誠にありがとうございます。また、日頃から本市の教育行政の推進に多大なるお力をいただき心から感謝いたします。 総合教育会議ができた発端は、教育行政を教育委員会と市長部局が一緒になって、進めようということで始まりました。過去にも様々なことについて、ご協議いただき、成果を挙げたものもございます。 本日の議題ですが、一つ目は、「図書館の特色ある取り組みについて」です。現在実施している取り組みや今後予定している取り組みを共有するとともに、今後の参考とするため、委員の皆さんからご意見を賜りたいと考えております。 二つ目は、「新美術館としての成果と今後について」です。令和6年3月3日の開館から現在に至るまでの成果を共有し、今後の課題や取り組みについてご意見を賜りたいと考えております。 最後に、その他事項として、部活動の地域移行に係る現状についてご報告します。 結びになりますが、引き続き、未来を担う子どもたちが安心して学び、健やかに成長できるまちづくりを進めてまいりますので、委員の皆さんには忌憚のないご意見をお願いいたしまして、開会に当たっての、ごあいさつとさせていただきます。 本日はよろしくお願いいたします。
--	---

3 教育長あいさつ

政策戦略課長	ありがとうございました。 続きまして、下境教育長ごあいさつをお願いいたします。
下境教育長	皆さんおはようございます。第2回の渋川市総合教育会議を開催いただきまして、誠にありがとうございます。7月の第1回から時間が経過をしておりますけれども、新たな報告を含めまして、ご協議をいただきたいと思います。

	まず、図書館の特色ある取り組みにつきましては、図書館業務として、本の貸し出し業務がございます。それ以外の様々な特色ある取り組みを、特に今年度は、ぬいぐるみのお泊まり会等の特色あるものも報告をさせていただく中で、図書館の取り組みについてご協議をいただきます。 また、3月3日にリニューアルオープンということで、新美術館が誕生いたしました。その開館記念展として、企画展を年7回企画をして、もうすでに6回目が終わります。7回目は3月15日から、衣真一郎展ということで実施をさせていただきます。また、8月には「美術館に街をつくろう」ということで、ダンボールを使って街づくりをするワークショップを実施しました。その作品を展示をするという企画展もありました。 皆さんの様々な視点からご意見をいただいて、さらなる図書館、美術館の充実した取り組みに繋がりますよう、ご協議をお願いを申し上げます。 また、部活動の地域移行につきまして、現状を報告いたします。現在、庁内の検討委員会、さらには、テーマごとのワークショップをしていただいております。中学生の部活動につきましては、ご承知の通り、社会性の獲得や人間形成の上で貴重な体験活動になると思いますので、そういった点で、渋川市としてどんな移行ができるか、そういったことも検討する中で、皆様のご意見をいただきたいと思います。 2つの議題と1つの報告となりますが、どうぞ皆さんから貴重なご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。
--	---

4 議題

政策戦略課長	ありがとうございました。 ここで、本日の資料の確認をさせていただきます。 まず、令和6年度第2回渋川市総合教育会議次第、出席者名簿、当会議の設置要綱、資料1「図書館の特色ある取り組みについて」、資料2「新美術館としての成果と今後について」、資料3-1「部活動の地域移行に係る現状について（報告）」、
--------	--

	資料３－２「参考資料」 以上の資料を皆さんに事前に配布してございます。 資料の不足等がございましたら、お申し出いただきたいと思います。 よろしいでしょうか。 本日の会議を傍聴したいとの申し出が１０名ございます。 本日の会議は公開の会議でございますので、これを認めることについて、ご異議はございませんでしょうか。 【異議なし】 ありがとうございます。異議なしとのことですので、傍聴することを認めさせていただきます。それでは、傍聴を希望する方に、入室いただきます。 【傍聴者入室】 それでは次第の４、議題に移らせていただきます。総合教育会議設置要綱第４条第１項の規定により、市長は総合教育会議の議長となるとされておりますので、これからの進行につきましては、高木市長にお願いいたします。会議録を作成する都合上、発言をされる方は、氏名をおっしゃってから発言されますようお願いいたします。
高木市長	それではしばらくの間議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
議題（１） 図書館の特色ある取り組みについて	
高木市長	議題「（１）図書館の特色ある取り組みについて」に入ります。資料１の説明をお願いします。 【教育部説明】
高木市長	ただいま、現在の様々な取り組み、そして、これからの取り組み、課題等について、資料の説明がございました。

都橋委員	委員の皆さんから、ご意見等ありましたらお願いします。 ご質問とご提案が何点かございます。まず、資料の1ページ、沿革のところで、インターネットの予約開始とありますが、インターネット予約の利用状況を教えていただきたいです。 それから、平日通年20時までの開館とありますが、こちらの利用状況も教えていただきたいです。 それから、2ページ、図書館の間のネットワーク、とてもいい方法だと思います。お互いに持っている書物だとかそういったものは、おそらく違うので、図書館同士の情報共有、ネットワークづくりは良いことだと思います。ユーザーの意見を大いに取り入れていただきたいと思います。 それから、3ページ、学校の図書室の先生は大変ご苦労されているかと思います。そんな中で、図書館職員が学校の図書室を訪問して相談を受けることはとても良いことだと思うので、ぜひ続けていただきたいと思いました。 それから、資料の4ページの視聴覚の利用促進について、こういった取り組みを初めて知りました。市民がこの取り組みをどのような方法で知ってるのか、おそらく、広報などでお知らせをしているかと思いますが、市民に浸透しているのか疑問に感じましたので、周知方法など教えていただきたいと思いました。 それから、最後になります。5ページ、図書館に来ることができない人への配送サービスについて、例えばインターネットからの予約ができるですとか、方策を教えていただきたいと思います。 以上です。よろしくお願いします。
高木市長	インターネットの利用状況、夜遅い時間帯の利用状況、図書館のネットワーク、学校図書室の利用の推進、視聴覚室の周知、配送サービスについて質問がありました。回答をお願いします。
渋川市立	まず、インターネットの予約サービスであります。こちら

図書館長	は、図書館管理システムを導入しまして、インターネットでも予約ができるようになりました。当初は、貸し出しをしている本のみをインターネットで予約できるというものでした。今年の３月にシステムを新しくしまして、今度は貸し出しをしていない本もインターネットで予約できるようになりました。 それから、利用状況につきましては、利用者数というわけではございませんが、令和５年度のインターネットの予約が、５９件となっています。現在は、予約の半分以上が窓口の予約となっています。 それから、２０時までの開館に関して、実際の利用状況ですが、１９時から２０時までの利用は大分少ない状況であります。平均で見ますと大体、１９時から２０時までの利用となると大体５人程度となります。 それから、図書館のネットワークについて、こういったサービスがあるということを色々な形でお知らせはしてきたと考えております。ホームページ等でも説明をしているわけですが、もう少し、皆さんに分かるような形にしていきたいと考えています。 それから、学校の図書室訪問について、図書事務補助員の方からは、普段から疑問に思っていたことが解決できたですとか、今後の方針と言いますか、やり方のようなものが分かって、非常に参考になったというお話を伺っております。多い相談内容としては、除籍の関係があります。古い本をどのように処分したら良いかということが、大きな悩みのようで、多くの図書室から質問が出ております。 それから、視聴覚室の利用促進に関してですが、映画鑑賞会について、広報ですとか、図書館だよりに掲載しております。また、ホームページや市公式ＬＩＮＥでもお知らせをしているところであります。利用につきましては、映画鑑賞会は先月、２８人の利用がございました。 最後に資料配送サービスの関係でございます。本が好きだけど、図書館に足を運べない方を対象にしたサービスとなっております。今後どのように進めいくかは検討していきたいと思っております。
------	--

都橋委員	ありがとうございました。それぞれの取り組みを、工夫して、ご苦労されていることがよく分かりました。特に今後の取り組みの最後にある、図書館に来ることができない人たちへのフォローは、これから少子高齢化が進んで、図書館に足を運ぶことのできない高齢者が増えると思いますので、とても良い取り組みだと思いました。今後も引き続きよろしくお願いします。
高木市長	他にご意見はありますか。
岩崎教育 長職務代 理者	保護者委員として参加させていただいて4年が経ちました。その間、図書館の読み聞かせに多く関わることがあり、図書館に多く足を運ばせていただきました。 以前住んでいました、宇都宮の図書館の話を以前もさせていただいたかと思うのですが、夫がリフレッシュも兼ねてビジネス書を読み、私は子どもを連れて読み聞かせに参加することが週末の楽しみでありました。渋川の図書館の良いところは、入ってすぐの企画展示のコーナーで、例えば雨の時期でしたら、雨に関連する本が多く配架されていたりだとか、そういった季節の移り変わりを感じることができるようなところです。市民の方や図書館の職員の方から出た意見で展示が変わるというところで、図書館という「箱」も大事だと思いますが、そこにいる職員の方の表現したいことや思いを形にしてあるところがとても良いことだと思います。 年々、図書館の雰囲気が変わってきたと感じられるのが、光が多く入っているということです。10年前と比較すると、子どもの本のコーナーが薄暗い雰囲気だったものが、明るくなったと感じたので、工夫していることがあれば教えていただきたいと思います。 それから、テストの期間になると学習室に市内の学生がたくさん集まると聞いておりますけれども、学生たちに本の楽しさをもう少し伝える機会があると良いと私は感じていますが、学生向けに何か取り組みをしているのか教えていただきたいと思います。 それから、もう1点、今月の22日にボランティア向けの

高木市長	講座がありまして、時をつむぐ会という高崎のNPOの方たちの中で、ボランティアスタッフをされている方が、先生としていらっしゃいます。 時をつむぐ会は高崎の本の家というところを拠点とされていて、そちらの代表の方とお話をしてきたのですが、渋川には良い本を広めようと活動されている方が多くいらっしゃるの、とても安心していますとおっしゃっていました。 群馬の中で、本当はそういったところがあるけれども、それを市民一人一人が感じることはできないのはなぜなのか、本を読もうとする大人がいないからではないか、本を借りに行きたいけれども行けないところにあって、本が届かないからなのか、もう少しあと1歩踏み込んだところで、渋川の図書館の取り組みを積極的に行っているというPRが足りないのではないかなというふうに個人的には感じます。 また、市内のボランティアグループの方たちと交流する機会がありまして、先日、渋川公民館をお借りして、絵本作家の方をお迎えした講演会を開くことができまして、市内のボランティアの多くの方に参加していただいて、絵本によって育ってきた方の講演会でしたので、とても温かく、穏やかに愛情を持った言葉を伝えることができたことは本当に良い機会であったと感じています。 そういったボランティアの方たちが集まって渋川市に本だけではなくて、そこに心をのせた活動がこれからも広がっていくことを期待しております。渋川の図書館から、もう少しこのような形で色々な方が活動しているということをつないで、1つのネットワークにしていくことがこれから必要なのではないかと思います。そのあたりで、館長のご意見や意気込みをお聞きしたいです。 現在の展示コーナーは建国がテーマとなっていて、色々なものが並んでいて非常に良いと思いました。また、時に生け花を展示することもあります。本とは違いますが、そういったことも楽しみの1つだと思います。 その他、館長の意気込みを示していただきたいということだったのでお願いします。
------	--

渋川市立 図書館長	最初に、図書館が明るくなったというところであります。最近、照明のLED化を進めており、利用しやすいように配置を工夫しています。また、子どもたちがどこでも本を読めるように、机や椅子の配置を工夫したり、テーブルを置いたり、利用しやすいような方法、本を手に取りやすい環境を整備しております。 それから、中学生、高校生、大学生世代の利用の促進は、図書館としても検討しているところであります。その世代の方が読みたいと思う本の収集を今後検討していきたいと思えます。 それから、ボランティアグループにつきましては、子どもたちに対して真剣に、そして、一生懸命に読書活動、読み聞かせをしていただいております。読み聞かせをしていただいたときに、子どもたちの心に響き、表情が変わってくるですとか、集中させる力ですとか、ボランティアの方々が各自持っていると感じております。 本の楽しさを知らせるに当たりましては、集中力ですとか、想像力、話に引き込む力というのが大切になってくるかと思えます。ボランティアグループの方々には図書館としても非常に感謝しておりますし、ボランティアグループ同士の横の繋がりということも図書館として大切に感じております。研修会や交流会を繋げるために、ネットワークづくりをしてほしいという声をいただいておりますので、図書館といたしましても、できる限り協力していきたいと考えているところでもあります。
岩崎教育 長職務代 理者	ありがとうございました。市内のボランティアの方たちが高齢化しているということと、その次の世代の方たちが共働き世代になっていて、ボランティアになかなか参加できないという声をよく聞きます。市内のそういったボランティアの方たちがいないこと、いなくなってしまった学校もあつたりして、西小学校では、ボランティアグループは立ち上がったのですけれども、まだ3人しか読み聞かせボランティアがいらないということで、そういった参加される方たちを育てていただくような活動もこれからも続けていきたいと思えます。

	す。環境を整えていただいて、子どもたちの心がより豊かになるような、そういった本をたくさん届けていただけると本当に渋川が良くなるのではないかと感じています。
高木市長	先ほど図書館が明るくなったというご意見がありました が、改めてそのことについて説明をお願いします。
渋川市立 図書館長	照明をＬＥＤに変えたこともありますし、背の高い本の配置を考えたり、照明の当たり方や採光をうまく取り入れるように工夫しています。
高木市長	図書館の運営は民間の方が支援をしてくださって成り立っています。もともと、沿革にもありましたように、浅野さんが私財を投じてできた図書館ですから、今でも浅野さんの流れを汲んで、カーリットから毎年、様々な資料を寄附いただいています。そういったことが今でも脈々と続いているのだと感じます。 他に何かご意見はありますか。
原澤委員	図書館は本を蓄えているだけではなくて、人が来てどのくらい借りるかということが大切だと思うので、今日の資料の中に、特徴的な取り組みの成果として、貸し出しがどのくらい推移したですとか、そういうことがあると、考えやすかったかなと思います。また、子どもだけではなくて、大人がどのくらい利用しているのかが知りたいです。というのも、大人も図書館で満たされたい。例えば、すごく良い講演会を年に数回受講したいですとか、それから、子育てに迷っているお母さんたちはたくさんいるので、子どもにとってもですが、お母さんたちが満たされるような図書館づくり、大人が引き込まれるような図書館づくりですとか、そういった視点も必要だと思います。現在のところでは、年代別の利用者数を把握していらっしゃるのでしょうか。
高木市長	年代別の利用者の状況について、説明をお願いします。

渋川市立 図書館長	年代別の利用者ですが、渋川市立図書館と北橘にも図書館があるのですが、渋川市立図書館ですと高齢者の方、60代、70代以上の方の利用が多い状況となっております。それから、乳幼児や就学前のお子さんの利用が、8%と1割欠ける程度の利用がございます。また、中・高生や20代は3%というところで、非常に少ない状況となっております。北橘図書館になりますと、地域の関係もあるかとは思いますが、小学生の利用が一番多く、高齢者の利用も多い状況にあります。 統計的なことを参考にしながら、様々な世代に利用していただけるような形で、様々な事業を展開できるよう検討しているところであります。
高木市長	他にご意見はいかがですか。
須田委員	今日お話をお聞きしまして、これだけバラエティーに富んだ取り組みをされていることを知りまして、個人的に足を運んでみようと思いました。ただ、今まで知らなかったことは、残念に思います。他の委員の方々がおっしゃっていたように、市民の方に取り組みが浸透するように、PRを進めていただきたいと思います。自分から興味関心を持って求めないと、ホームページを探すにしてもたどり着けないと思いますので、取り組みの情報など何となく目に触れるような機会があると良いかと思います。広報で情報を得ることができますが、もう少し、図書館単体としての情報を、得ることができるような方法があると、例えば、自治会に情報を流してもらうですとか、そういったことがあると、意識が、高まると思うので、あらゆる年代の方に図書館の取り組みを知らしめる機会、手立てがあればと思います。 それともう1点、学校訪問をさせていただき際に、幼稚園にしても、小学校、中学校にしても、レイアウトが工夫されていて、子どもたちの興味を引くような形になっていたのは、図書館の職員の方が訪問してアドバイスをしている成果がでているのだと感じました。今後もぜひ続けていただきたいと思います。

高木市長	須田委員のご意見を受けて、教育長、総括をお願いします。
下境教育 長	本日、このように図書館の特色ある取り組みを皆さんと共有できたことが一番大きな成果と思っています。私も近くにいながらにして、これだけのことに取り組んでいる、実情はどうかのかなというところまで踏み込んだ形で触れてこなかったという反省がございます。 その中で、須田委員からもご意見いただきましたけれども、こういった取り組みをもっと積極的に、分かりやすく、伝わりやすくPRすることが必要だと思います。そして、幅広い年代のニーズ、子どもや高齢者に特定するのではなく、働いている方々に図書館へ寄っていただけるような、そんな場所であってほしいと思います。図書館に足を運ぶきっかけづくりが大事なのだと改めて思いました。 先日も講演会を聞かせいただいたときに、私たちは一口に読み聞かせと言いますが、聞かせるといって、与えているような印象がありました。ただ、その講師の方は、「読み語りなんですよ。」とおっしゃっていました。読む人の言葉を聞く人に伝える。読み手の思いがそこにある。ということを初めてお聞きして、私が三原田小学校に勤めていたときには、月に1回読み聞かせの日があって、校長自ら読み聞かせをしていました。 初めて読み聞かせに行ったときに、1年生の担当になりました。子どもたちが食い入るように、絵本に夢中になって話を聞いている。これは手が抜けなないなと思いました。みんなそんな思いで、読み聞かせの会の方、読み語りの会の方が学校に行っていたら、図書室にも、それぞれの事務補助員がみんなつきましたので、その人たちがそれぞれの良さを活かしながら図書館経営をしていただいている。さらに、市立図書館との連携を図り、ますます渋川市が図書館を起点にした文化のまちになってほしいと改めて思いました。貴重なご意見ありがとうございます。
高木市長	ありがとうございます。私も図書館に行って、本を借りたり、調べごとをするようなことがなかったとしても、展示コ

	ーナーもそうですが、新しいものを感じることができます。ぜひ多くの人に図書館に足を運んでいただく、そういった機会をつくっていくには、周知をしっかりとしていくことが大事だと思います。貴重なご意見をいただきありがとうございます。 時間の都合もありますので、次の議題に移りたいと思います。
議題（２） 新美術館としての成果と今後について	
高木市長	それでは、議題「（２）新美術館としての成果と今後について」に入ります。資料２の説明をお願いします。 【教育部説明】
高木市長	ありがとうございました。新美術館が開館して１年近くが経ちますが、これまでの状況について説明いただきました。委員の皆さんからご意見等あればお願いします。
原澤委員	資料の最後のページにある一覧で、すべてを観覧したわけではありませんけれども、私が見た中で、最も感銘を受けたのは、綿貫清さんの竹工芸でした。私の観覧している横で、おそらく伊香保からの帰りだと思われる２人の方が会話していたことが印象に残っていますが、伊香保の帰りにこんなにすごいものを無料で見ることができるなんて奇跡的だねと。特に、竹の組み方を全部一覧にしたパネルについては私も感銘を受けました。市民ギャラリーとしての使命も半分抱えていることは十分承知していますが、市民に寄り添った企画、市民ギャラリーの利用と、それから、渋川にいたのでは見られないものを見せてくれるような、いわゆる企画展、この比重が、美術館が持続可能になることに繋がるのではないかと思います。以前にお話したこともあるのですが、資料にアニメの原画展とあります。渋川だったらイニシャルＤですとか、美術館の認知度を上げるためにも、イニシャルＤの企画展を開いて誘客に繋げるですとか、上下水道局には、マンホールもありますし、そういったことができるのではないかと思います。

	ただ、それには先立つものがあって、美術館にどれだけの予算が使われてるのかは、存じ上げませんけれども、交渉次第ということもありますし、レプリカではなく、本物でないといけないですね。市民ギャラリーとしての使命を十分果たしながら、市民に寄り添った展示をしながら、時折、渋川の美術館でこれだけのものが見ることができたというのと、それによって認知度が上がるという、そういった取り組みをしていただきたいと思います。資料にアニメの原画展と書いてありますけれども、これからの構想の中にどんなものがあるのかお聞かせください。
高木市長	これからの企画について、いかがでしょうか。
渋川市美術館長	これからの企画ということですが、ご紹介しました、動物の写真の作品展は、渋川出身のプロカメラマンで、動物を中心に写真を撮っていらっしゃる方の作品を展示するもので、おおむね了承いただいております。令和8年3月からという予定になっておりますけれども、動物を中心とした、写真展を計画しております。動物ですと、それこそ幅広く、子どもから高齢者の方まで見ていただけるということと、動物の写真ですと、癒されるといいますか、そういった効果もございますので、美術館の職員も今から楽しみにしているところでございます。 それからアニメの原画展も挙げさせていただいておりますけれども、これは観光課に協力いただいて、実現させたいというところがございます。イニシャルDになるかどうかはまだ分かりませんが、計画しております。これは令和7年の10月頃に開催したいと考えております。 また、特徴のあるところでは、先ほどお話をさせていただいた、渋川市手わざの美と心展ですが、これは年度明けて4月の終わり頃から5月にかけて開催したいと考えております。以上です。
伊勢副市長	原澤委員からイニシャルDの原画展の開催について、ご意見をいただきました。観光課との調整ということですが、イ

	ニシャルDについては、版權が非常に高額になっております。渋川市内に7ヶ所イニシャルDのマンホールを設置しておりますが、そのマンホールを設置し続けるだけでも、年間100～200万円程度継続的に支払っていかなければならない状況でございます。また、イニシャルDは、世界的に、特にアジア圏に人気があり、映画にもなりましたけれども、その映画を日本の企業が落札できませんでした。香港の会社が落札し、アニメを映画化したというような経過もございます。交渉をして糸口を探っているところですが、金額的に折り合いがつかない状況でございます。本物を見せたい、例えばイニシャルDということだと思いますけれども、イニシャルDのような、インパクトがある、そして、予算的にも、一定の範囲の中で収まるような、アニメツーリズムというものを今後、考えていきたいと思っております。
高木市長	例えば、イニシャルDのような、本物を目にする機会がほとんどないものを見てみたい。市民の気持ちとしてあると思います。3月から始まる企画展の衣真一郎さんは有名な作家さんです。あちこち引っ張りだこでなかなか企画展を開くことができないと聞いています。伊香保の出身だということもあって、渋川の企画展に協力していただけることになりました。こういった作家さんがいるということを市民の皆さんにも知っていただいて、作品を見ていただきたいと思っております。また、今回が初めての有料の企画展となります。 他にご意見はありますか。
岩崎教育 長職務代 理者	中之条にビエンナーレというものがあります。渋川ではアートリラという観光協会の方たちが中心に進めてくださっているものがあります。それが実際、観光客にどういった影響を及ぼしているのか、私たち市民にも、どういった効果があるのかが分からない状況ですので、そのことについて、簡単に説明をいただきたいというのが1点です。中之条町では、ビエンナーレによって、若者がこの町に住み続けたいと思ったり、活気があると感じてると人づてに聞いているので、アートとまちづくりというものをどのように計画していらっし

	やるのか教えていただきたいと思います。 それから、美術館のコンセプトが「つながり、ひろがる、あおぞら美術館」ということで、すごく良い言葉だと思います。これを実現していくには、多くの方に認知していただくということと、一市民として足を運んでみたいと思うような企画が必要だと思います。原澤委員がおっしゃったように、一般向けに、ここに美術館あるということと、それが ある ことによって、市民が誇りを持てるような施設にしていきたいと思います。今の美術館の現状として、まだ始まったばかりということもありますが、今までの公民館事業に似ていいる企画だと感じました。もちろん、作品としてはすばらしかったり、芸術家の方が一生懸命、制作しているのも分かりますが、無料だから足を運びたいというわけではなくて、お金を払ってでも足を運びたいというのが美術館だと思うので、経営的なところをもう少し考えていただけると良いのではないかなと感じています。例えば、宇都宮市美術館でヨシタケシンスケさんの絵本の原画展をしています。この方の本は非常に人気があって、全国から2万人の来場があったそうです。大人であれば100円入場料をいただければ、多くの収入を得ることができると思います。イニシャルDはお金がかかるかもしれないんですが、その元を取るような計画を立てていただいて、市として予算をつけていただいたり、元を取るという気概をもっていただきたいと感じております。ちなみに、私はこれからモネ展に行きたいと思っています。
高木市長	副市長から考えがあればお願いします。
伊勢副市長	大変すばらしいご提案をいただいたと思いますし、そういった考えを持っていただいていることは非常に心強いと思いました。 アトリラの関係は、ここ数年、伊香保温泉の有志の方たちが非常に熱心に取り組んでいただいております。芸術と観光をうまく融合させ、そして、多くの作家の方が長期間、伊香保温泉に滞在しながら、作品を作り、作品を展示していくというコンセプトは、本当に素晴らしいと思っております。ビ

エンナーレのように、まちや生活に潤いを与え、まちに品格を持てるような、そういったまちづくりを芸術を通じて行っているということは、多くの成功事例がございますので、渋川市にも取り入れていきたいと思っております。特に渋川市が合併する前の旧渋川市ですけれども、日本シャンソン館から伊香保の徳富蘆花文学館までの、9 k mをアルテナードという名前で売り出しまして、もうすでに25年近く経過していると思います。アルテナードとは、造語で芸術の散歩道という意味です。芸術の散歩道としてPRしております。移転する前の美術館は新町にありましたので、シャンソン館のすぐ上が美術館でありました。美術館の場所は第二庁舎に変わりましたが、市内全体を屋根のない美術館に例え、その中に、一本アルテナードが大きく通っているというコンセプトは変わらずに引き継いでいただいていると思っております。これからも、アートとまちづくりを上手に融合しながら進めていきたいと思っております。当面は、市有施設の改修、また、新設する場所などに、収蔵しております彫刻作品をできるだけ多く配置して、どこにいても、彫刻に触れ合えるような、そんなまちづくりを進めていきたいと考えております。また、彫刻は手で触れることができますので、視覚に障害があっても、立体的なものを「みる」ことができます。共生社会を実現する渋川市の1つのシンボルとしても進めていきたいと考えております。

また、先ほどお金を取ってでも良いものをとご意見をいただきました。そういった考え方もあると思います。メリハリをつけた展示の仕方、また、お金をかけてでもその価値を上げていくということは当然必要なことであると思っております。

美術館が新町にあったときと、今の場所と大きく違うのは、第二庁舎が健診などで多くの方がその場所を通ることです。ここで待ち合わせをしていただいたり、何か催しがあるからといって、見ていただくこともできております。気軽に立ち寄っていただけるような美術館であることを知っていただき、そして、その中から、本物を見つけていけるような、長く親しまれるような美術館にしていきたいと思っておりますので、今後ご意見いただければと思います。

高木市長	他にご意見はありますか。
岩崎教育 長職務代 理者	桑原巨守さんの作品の中で、私も少し前まで知らなかったのですが、全国読書感想文コンクールのモチーフになっている金色のシールですが、それが牧羊神であるということをも市民に対して、図書館なのか、美術館なのか、あるいは、両方で周知をしていただいて、こういった素晴らしい方の作品が身近なところで触れることができることをPRしてはいかがでしょうか。
高木市長	ありがとうございました。今の提案について、美術館長お願いします。
渋川市美 術館長	令和7年度の事業としては、常設展示とは別に、桑原巨守の企画展を予定しておりまして、現在、常設展示室ではサイズの大きい作品10点を固定展示ということで、皆さんにご覧いただいています。サイズの小さい作品も多くございますので、そうした機会に、サイズの小さい作品を見ていただけるように、取り入れたいと考えております。時々、牧羊神を見たいと問い合わせをいただいたりしておりますので、そうした機会でも、牧羊神を皆さんに見ていただけるように、展示に加えさせていただこうかと考えております。
伊勢副市 長	桑原さんの作品の中で、読書感想文のマークのモチーフになっている牧羊神も大変有名ですし、平沢川沿いにあります、「賛太陽」が最も有名な作品で、東京証券取引所の中央に飾ってあります。それだけではなく、阪神大震災後、復興するのに桑原さんの作品が太陽を見て元気をくれる作品だということで、神戸市の生田というところに設置をされております。そういったものも紹介しながら同じ作品が、違う場所で、違う市民に元気を与えていると、そういったストーリーを紹介しながら、美術館作品にもっと夢を持っていただいたり、それを市民が違う人に紹介するような、そして、自分の町の誇りにつなげていくような、そんな取り組みも続けていきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

高木市長	他にご意見はありますか。
須田委員	渋川市の美術館に収蔵されているビッグネームの作品があれば教えていただきたいです。
渋川市美術館長	先ほど申し上げました、牧羊神は、非常に有名だと思うのですが、その他に、日本画で村上鳳湖という方がいたのですが、その方の作品を17点収蔵しており、その方が非常に有名だと聞いております。あとは、渋川市にちなんだ作家さんが多いかと思います。
伊勢副市長	高村光太郎さんの木彫が一番有名なものとしてあるかと思っています。
須田委員	有名な作品の展示ができると良いかと思います。
高木市長	3月の衣真一郎さんの企画展は初めて有料となりますので、何とか成功させたいと思いますし、原澤委員は土屋文明記念文学館で学芸員をされて、有料の企画展が多くあったかと思いますので、今後もお知恵をいただけると幸いです。 他にご意見等ございませんか。
都橋委員	美術の世界は非常に難しいと思います。そんな中で、新しい美術館ができて、スタートしたばかりです。先急ぎすることなく、コンセプトにあるように、広く市民が楽しめる、そんな美術館にしてもらいたいと思いました。 私の個人的な話ですが、文化と関わっている中で、美術や文化は人を育てるのかなと思っています。人は文化をつくり、育ててきた。文化は人を育てる。というのが、最近私が文化の関わりの中で持論にしているところです。美術館についても同じようなことがいえるのかなと思います。先ほど申し上げたとおり、先急ぎすることなく、様々な分野でのイベント、そういったものを開催していただいて、広く市民の人たちに知ってもらい、見てもらい、来てもらい。そんな美術館にしたいと思っています。よろしくお願いします。

高木市長	大変貴重なご意見ありがとうございます。時間の都合もございいますので、教育長から総括をお願いします。
下境教育 長	皆さん、貴重なご意見ありがとうございました。３月３日の開館に向けて、大きなご苦勞があったかと思えますけれども、そこに向けての夢や希望がたくさんあったと思います。開館後も池田名誉館長の指導のもとで、美術館の職員が懸命に１つ１つのイベントに向かっていると、近くにいてすごくそれを感じております。また、美術館の運営に当たっては、運営協議会や「友の会」の皆さんの力が非常に大きいです。友の会役員会は今年度は定期的を開いていただいて、様々なイベント、また、運営に対してのご意見をいただいております。より良い美術館の運営に向けて、ご意見をいただいたり、お力をお借りして、来年度さらなる飛躍を目指したいなと思っています。新美術館のコンセプトが広く市民に知られ、鑑賞するのに心地良い場所であってほしい。そんな思いで、これからも美術館をますます、皆さんに知ってもらうようにしたいと思っています。美術館は始まったばかりですが、小さくても輝く。そして、渋川には素晴らしい美術館があると言われるような、誇りを持てるような施設にしていきたいと思えます。これからも皆さんのご協力、ご支援をお願いいたします。
高木市長	ありがとうございます。それでは、以上で２件の議題について、終了させていただきます。
その他（１） 部活動の地域移行に係る現状について	
高木市長	最後に、部活動の地域移行に係る現状について、時間の都合もありますので、簡潔に報告をお願いします。
	【教育部報告】
高木市長	ありがとうございます。報告について、ご意見等はよろしいでしょうか。それでは、以上で報告を終わりにします。 部活動の地域移行については、まだまだ課題がありますの

	で、またこういった機会を設けて協議したいと思います。
--	----------------------------

5 その他

高木市長	以上で本日予定していた協議事項、報告事項は全て終わりました。その他にご意見等ありましたらお願いします。 【意見なし】
------	--

6 閉会

高木市長	マイクの不調で時間が遅くなってしまったこと、お詫び申し上げます。以上で本日の総合教育会議を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。
------	--